

第99回役員会議事要録

日時：平成30年1月24日(水)10:00～

会場：大学本館E-703会議室

出席者：津田理事長、松尾副理事長、清田理事、片山理事、柳井理事、梶原理事、田上理事
(オブザーバー) 中野監事、福田監事、二宮副学長

議案

- 1 王立プノンペン大学（カンボジア）との大学間協定等の締結について
- 2 ニューエラ大学（マレーシア）との大学間協定等の締結について
- 3 キングモンクット大学トンブリ校（タイ）との大学間協定等の締結について

議案1 王立プノンペン大学（カンボジア）との大学間協定等の締結について

<質疑応答>

[理事]

○単位は修得できるのか。

[副学長]

○英語で行っている授業を履修し、本学で単位認定している。本学に単位認定する受け皿はないが、現地のカンボジア語初級の講座を受けることもできる。大学の中は英語環境である程度生活できるが、大学周辺は英語が通用しないところもある。北九州市の事務所の協力を得ながら住む場所を探したり、現地での経験がある大学からノウハウを引き継いだりしながら、学生がうまく生活をスタートできるような環境を構築中である。

[理事]

○語学というよりは、カンボジアの状況を良く知る学生を育成するというイメージか。

[副学長]

○企業に入ってパイプ役になれるような学生を育てたいと考えている。

【議長】提案のとおり承認してよろしいか。

【委員】異議なし

議案2 ニューエラ大学（マレーシア）との大学間協定等の締結について

<質疑応答>

なし

【議長】提案のとおり承認してよろしいか。

【委員】異議なし

議案3 キングモンクット大学トンブリ校（タイ）との大学間協定等の締結について

<質疑応答>

[理事]

○理系の学生が出て行くことのできる環境を増やすのは、非常に良いことだと思うので、増やしてもらいたい。沢山の大学の名前が列挙されているが、数を増やしてバリエーションを増やせばいいのかという問題もある。向こうから来ていただく環境をもう少し作らない

といけないのではないか。お金がないのは分かっているが、受け皿の組織を作ったり、市民に募って住環境は無料で受け入れる体制を作ったりするなど、アクションを起こす必要があると思う。日常生活に触れることで、日本への興味が増す。特に、理系は実験などに追われて、そういう機会のないまま帰ってしまうことがある。北九州はインフラが沢山あるし、留学生を受け入れていいという家庭も沢山あるだろう。何かアクションを起こしてもらいたい。

[理事]

○資料の中で交流実績数が入っていない大学があるが、役割を終えた大学などは精査してはどうだろうか。

[副学長]

○休眠状態の協定については、洗い出す必要があると思っている。更新する際には、状況などを確認して本当に必要かを精査する制度が今年から動き始めている。また、実績の少なくなっているところは、工夫をしながら実績を上げていくよう努力している。

[副学長]

○この資料のタイトルは学術交流協定となっているので、実績に「-」が入っているものもあるが、地域戦略研究所と共同研究を活発に行っているようなところもある。

[副理事長]

○すぐには難しいが、留学生の受入施設なども検討しているところである。日本の大学全体がグローバル化しており、協定の締結先を探すことや締結先での枠の確保が難しくなっている。英語については、欧米圏だけでなくアジア圏にも目を向けると、渡航費が安いなど学生にもメリットがあることから新規開拓を検討していきたい。

[理事]

○イスラム圏も場所としてはいいと思う。

[理事長]

○先ほどの理事の話にもあったが、受入の部分で何かできればいいというのはあると思う。

[理事]

○65歳でハッピーリタイアした人の中には、子どもが家を出て部屋も空いていて、留学生の受入に興味がある人はいると思う。

[理事長]

○地域の活性化にも繋がってくると思う。リスクはあると思うが、そのリスクは取るべきレベルだと思う。学生の海外派遣は、目標にどの程度達しているという状況か。

[副学長]

○交換留学の枠だけだと到達目標の4割程度しかならないため、派遣と語学研修、海外インターンシップを含めて1.5倍を達成しようという目標である。

[理事]

○具体的な人数は几人か。

[事務局]

○平成27年度に比べて平成34年度までに1.5倍にするというもので、平成27年度の実績が138人なので207人以上を増やすという目標である。

[理事長]

○交換留学の枠を増やすとなると、こちらのプログラムに魅力が必要。

[副学長]

○今までは、日本語ができないと授業が受けられなかったが、英米学科で提供する英語の授業も履修可能にするといったところから、ハードルを下げる努力をしている。地域との繋がりに関しては、国際交流センターのアドバイザーがフォーラムを立ち上げ、ホームビジットなどに繋げる努力しているが、ホームステイの枠までは至っていない。

[理事]

○海外での勤務経験のある団塊の世代が日本に戻って来ていたりする。

[副学長]

○日本人が海外でホームステイする場合は、費用を払っている。こちらで留学生を無料で受け入れてくれる人が本当にいればありがたいと思う。